

源光遺跡発掘調査現地説明会資料

栗原市教育委員会

要項

遺跡名	源光遺跡	調査主体	栗原市教育委員会
調査原因	都市計画道路一迫南線整備事業	調査担当	栗原市教育部文化財保護課職員、 宮城県教育庁文化財課職員
調査期間	令和3年5月10日～9月上旬（予定）		
調査面積	約730㎡（今後の調査予定面積約400㎡）		

はじめに

源光遺跡の発掘調査は、都市計画道路一迫南線の整備に伴うものです。工事予定範囲に下萩沢遺跡が隣接していたために2007年（平成19年）に確認調査を行った結果、遺構が確認されたました。2010年（平成22年）より工事計画に合わせて下萩沢遺跡の発掘調査、引き続き源光遺跡の発掘調査を実施してきました（第3、4図）。これまでの発掘調査により、縄文時代、古墳時代、古代（奈良、平安時代）、中世、近世の遺構や遺物が発見されています。

源光遺跡の北側約2kmに767年に創建された伊治城（第1図2）が所在します。また、源光遺跡の周辺では東北自動車道や国道4号バイパス建設などの工事に伴い下萩沢遺跡（第1図6）、原田遺跡（第1図5）、木戸遺跡（第1図8）、佐内屋敷遺跡（第1図7）や御駒堂遺跡（第1図12）などで発掘調査が行われており、奈良、平安時代の集落が多数調査されています。



第1図 源光遺跡と周辺の遺跡



炭化した壁材（SI8 東辺。斜め上から）



炭化した壁材（SI8 北辺）



カマド（SI18。本体は白色粘土で構築）



カマド（SI8。本体・煙道を白色粘土で構築）



焼け落ちた屋根の土と垂木（SI18 西辺）



須恵器中型甕の出土状況（SI8）

まとめ

- 源光遺跡は縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の遺跡です。都市計画道路整備事業に伴う今年度の調査では、8世紀中葉から9世紀前葉の竪穴建物跡4軒、掘立柱建物跡11棟などを確認しました。
- 掘立柱建物跡は4時期の変遷が認められます。居住施設や倉庫、竪穴建物が計画的に配置されること、桁行が5間となる主屋があることなどから、伊治城に勤務していた有力者の居宅と考えられます。
- 竪穴建物跡のうち2軒は一辺8m以上の大型で、火災で焼失しています。ともに壁の崩落を防ぐ板材（壁材・腰板）が炭化して残っていました。SI8では壁材が縦板であることが判明し、宮城県内では初めての確認例となりました。
- これまでの発掘調査の結果、源光遺跡と周辺の古代集落の様相が明らかになるとともに、火災に遭った竪穴建物のデータが蓄積され、その構造を詳しく知ることができます。こうした成果の積み重ねにより、古代栗原郡の歴史が具体的に描けるようになってきました。